

オモシロ技術塾は、従来からの課題と考えていた、いわゆる内輪のみの勉強会からの改善を図るため、島根県環境保健公社さんとのコラボ企画として、産・官・学・会員・非会員と幅広く我々の技術情報や知見を提供するとともに、CPDポイントも付与するという新しい取組みを行いました。

具体的には、先月11月17日（土）午後、環境保健公社さんの研修ホールを使い、「インフラメンテナンスにおける環境分析と現状」と題して、

- 池森技術士からは、県行政のインフラメンテへの取組みや考え方についてのご紹介を、
- 糸原技術士・成相技術士からは、昨今話題に挙がっているPCB塗膜調査の事例紹介を、
- 環境保健公社さんからは、PCBをはじめとする分析実務や試験設備の紹介、プラスチック製品にまつわる環境問題の紹介、更には保健師さんより健康診断結果の説明といった話題提供もありました。



参加人数としては、募集30名に対し、スタッフを含む30名の参加が得られました。これについては、ひとえに理事の皆さま、会員の皆さまのご協力あってのことだと感じています。

周知や集客方法、日程、話題内容など今後への課題はまだありますが、技術士会主催の外向きの技術講習会という意味でも、今後の活動へ向けて一定の成果が得られたのではないかと考えています。

産学交流企画は、島根大学地域未来協創本部さんとの共催で、12月1日（土）に島根大学にて、島大生5名、高専生11名、先生6名（島大5、高専1）、技術士10名の計32名が参加して行いました。

※最近の参加学生数

	島大	高専	計
H29	12	4	16人
H28	8	42	50
H27	14	7	21
H26	14	6	20

内容としては、例年に倣って、学生と技術士とで課題解決（今回は「災害時にどうやったら避難してもらえるか」）を行ったほか、進学や就職についての相談会も行いました。そして夜は、先生5名と席を囲んで活発な意見交換を行いました。



私自身、技術士会活動に参加するようになってから、島大・高専の理工系17～20歳の学生さん達と関わる機会を多く持たせてもらっていますが、学生さんは最初こそアイスブレイクが少し必要

ですが、課題解決への積極的な意見、将来への疑問や不安などの相談をととても積極的にしてくれます。

私見ですが、学生さんは多くの疑問や不安を持っていますが、毎日顔を合わせる先生や親御さんには中々相談しづらいこともあるかと思えます。そこへ、学校のOBであったり、自分の親世代であったり、決して上からでないフレンドリー全開の我々技術士は、一期一会的な意味も含めて相談し易い相手なのかなあと感じています。

何はともあれ、この世代の学生さんと技術士が絡んでいくことは、教育機関側も含めた三者にとってとても意義あることであり、今後も学生数の確保などの課題も踏まえつつ、継続していきたいイベントと考えています。

引き続き、主に就職相談や情報提供を行う「高専特化版」を5月GW前に行う予定です。

しまね大交流会は、「しまねの若者に“地域”の魅力や選択肢を伝える場を提供する」ことをコンセプトとして（要は都会への流出防止）、島大・県立大・高専・島根県などの主催で、12月15日（土）にくにびきメッセにて行われました。

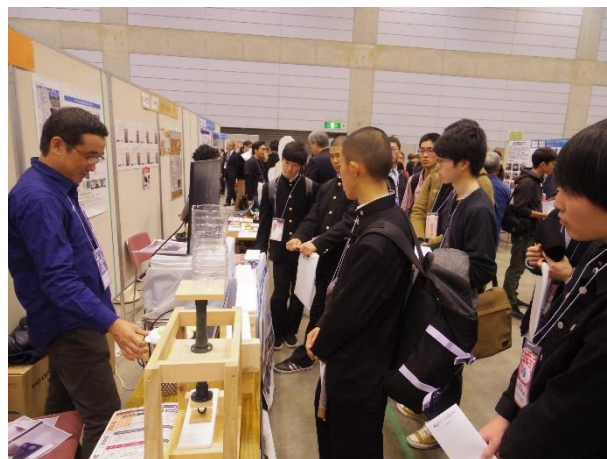
正式な発表はまだされていませんが、参加者・団体数については概ね以下の通りで、かなり大規模なものでした。

- 学生（島大、県立大、高専、松江東高、明誠高、隠岐島前高校）：1,000人以上
- 企業・団体・教育・保護者など：1,000人程度
- 出展：200団体程度

私自身初めての参加で、事前の情報からは、のんびりお試し程度のイベントと考えていましたが、結果的には想定を大きく上回る学生さんや大学先生、他の技術士さんなどの来ブースがありました。（100人近くは学生さん来ました！）

忙しかったのですが、その甲斐あって、我々技術士の周知目的としては相応の手応えや収穫を得ることができました。具体的な収穫の一つとしては、島大の情報分野の先生から、情報工学技術者の建設業界での活躍の場、技術士取得を見据えたキャリアパスの紹介など、学生さんへの情報提供を依頼されています。

本企画も大いに継続の価値あるものと考えますが、青年部会のみではキャパもあるため、数ある企画の取捨選択、他部会とのコラボなども今後の課題になると考えています。



以上。